

各 位

上場会社名 日本出版貿易株式会社
 代表者 代表取締役社長 大野 利夫
 (コード番号 8072)
 問合せ先責任者 取締役事業管理部本部長 天内 健一
 (TEL 03-3292-3751)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,706	30	4	16	2.68
今回発表予想(B)	3,233	△23	△50	△71	△11.15
増減額(B-A)	△473	△53	△54	△87	
増減率(%)	△12.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,519	△26	△43	△8	△1.48

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,861	198	154	92	15.38
今回発表予想(B)	8,730	147	102	60	9.42
増減額(B-A)	△131	△51	△52	△32	
増減率(%)	△1.5	△25.8	△33.8	△34.8	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	8,413	36	△4	13	2.19

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,606	10	△15	0	0.00
今回発表予想(B)	3,211	△14	△41	△61	△9.69
増減額(B-A)	△395	△24	△26	△61	
増減率(%)	△11.0	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,417	△35	△52	△17	△2.92

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,552	174	134	80	13.38
今回発表予想(B)	8,421	123	82	50	7.85
増減額(B-A)	△131	△51	△52	△30	
増減率(%)	△1.5	△29.3	△38.8	△37.5	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	8,104	4	△32	△13	△2.28

修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

個別における売上高につきましては洋書と輸入音響商品の国内販売が計画を上回りましたが、世界的な景気減速による消費低迷の影響を受け海外向けの販売が低調に推移したため予想を下回る見込みです。営業利益におきましては輸入音響商品の販売業務と海外の大学図書館向け業務が堅調に推移したものの、全体の売上高の減少と昨年からの取り扱いを開始した外国雑誌等の洋書関係の物流経費の増加に加え内部統制を整備する費用増加によりマイナスになる見込みです。また、経常利益におきましては為替レートが円高で推移した結果、為替差損を計上するなど低調に推移しました。当期純利益におきましては保有している投資有価証券の一部について減損処理による評価損の計上と繰延税金資産の一部取崩しにより予想を下回る見込みです。

連結におきましては海外子会社の取り扱いしている日本語教材の販売が順調に推移しましたが、全般的には景気低迷の

影響を受け売上高、利益ともに低調でした。米国の子会社の業績は事務所の移転費用等の経費増により予想を下回る見込みです。

(2) 通期業績予想

通期業績予想につきましては洋書部門の業務提携による大幅な経費削減と売上増を見込んでおります。また、輸入音響商品の販売チャネル変更による売上増、利益増も見込んでおりますが、第2四半期迄のマイナスを挽回するまでは回復せず、さらに円高と米国の内需不振は継続すると思われるので期初の業績予想を修正いたします。なお、投資有価証券評価損については平成22年3月までには簿価の50%を回復すると考えておりますので通期業績予想には含めておりません。

以 上